

美杉の農地に産廃投棄か



産業廃棄物が混入した土砂で埋め立てたとみられる現場。いずれも津市美杉町上多気で

土砂にコンクリート片など交じる



土砂の中から見つかったコンクリート片

(鎌倉優太)

津市美杉町の農地の三方所にまたがり産業廃棄物とみられるアスファルト片や木片が交じった土砂が投棄されていることが分かった。地元の建設会社二社が搬入したとみられ、県は両社の関係者などから聞き取りを進めている。

農地の所有者や地元住民によると、少なくとも十二年前から二社が土砂を搬入し、重機で地表を整地するなどした。搬入された土砂は約三千七百平方メートルにわたり、高さ二〜十メートルに達している。

所有者二人と売買契約を結んだ津市白山町のソーラーパネル事業を営む会社が不審に思い、九月中旬、重機で掘り起こしたところ、コンクリート片などが埋まっていることを確認した。県や市にも通報し、それぞれ現場を確認している。

市農業委員会事務局の担当者は「地権者や土地所有者から聞き取りをした結果、かさ上げの一環だと認識している」と説明した。

一方、県津地域防災総合事務所の担当者は「産業廃棄物の可能性が高い」と指摘。廃棄物処理法に基づき、行政指導を視野に、所

有者や土砂を搬入した建設会社から経緯を確認している。

農地を所有する八十代女性「十二、三年前に田んぼの一部を埋め立てて使いやすくしてあげると言われ、土砂の搬入を許可した。コンクリート片などが埋まっているとは知らなかった」と話した。別の所有者の男性は「土を置かせてほしいと頼まれたが、何が運ばれているのかまでは分からなかった。お金のやり

とりはない」と語った。いずれも口約束で、書面のやりとりはないという。

二年ほど前から、この農地に複数回、建設残土を運び込んだという同町の建設会社の男性社長は「土にコンクリート片などが交じっていたのを見逃していた可能性があるが、意図的ではない」と釈明した。別の建設会社の男性社長は「地権者と話についている。話すことはない」と語った。